



会報
53号

ながめ

デザイン 池田満寿夫

発行人 峯村清志

編集長 井澤一幸

3月末現在賛助会員数 長野地区 510人 県全体 2,686人

「震災から8年 現地に学びそしてつながる交流会」

被災地オテガミプロジェクト推進チームが開催

あれから八年。震災支援活動を続けてこられた賛助会長野支部の「被災地オテガミプロジェクトチーム」(代表 久保田 洋一氏)が、三・一一を前に長野市勤労者女性会館「しなのき」で交流会を開催しました。被災地の大槌町と陸前高田からパネリスト四人を招き、内山理事長の総司会で始まりました。

当日、鍋屋田小学校児童より激励の寄せ書きがあり、三名がステージ発表で思いを語ってくれました。

オープニングはコーラスグループ「アンサンブルビ・ボーチェ」の「花は咲く」他二曲が披露され、最後に「故郷」で会場全員が合唱しました。その後、各パネリストとの意見交換が行われましたが、特に目を引いたのは、現地、陸前高田とインターネット中継で結び、激励のお手紙や支援物資を送るグループとの対話があり、会場全体が大いに盛り上がりました。続いて会場とパネリストとの対話交流で締めくくり終了しました。

現地とつながる生中継で対話 会場盛り上がる



インターネット中継で結び、現地と支援者との交流



オテガミプロジェクトチーム
代表
久保田 洋一氏

初期の目的を果すことが出来
感謝し、引き続きご協力を

七月から準備を始めた「大震災から八年、現地に学びそしてつながる交流会」(陸前高田・大槌町の皆さんと語ろう)は、九月初め、内山二郎氏に司会を依頼し、並行して意中のパネリストとの交渉を進めました。会場が決定し、十一月末に陸前高田へ行き、市長や商工会長等の関係者とお会いして概要を固めました。実行委員会の組織等諸準備に入り、チラシ配布や資金捻出が心配の種でしたが、入場者数220人、物販は早々完売の好成績で、防災・命の大切さを体験者から学ぶと共に、長野で被災地との交流を実感し交流の種を更に多く蒔く初期の目的を果たすことが出来ました。

マスコミも、事前に信毎・週刊長野・市民新聞・SBCラジオ等十社に働きかけた結果、当日八社の取材がありました。

賛助会には協賛に加え、参加者に協賛金一部補助のご配慮を頂き、更に、多くの方々のご力を戴きました。

被災地の本当の復興はこれからです。引き続きご協力を宜しくお願いします。

代表 久保田 洋一

豊かなセカンドライフ実現のために

長野地区賛助会文化交流会の開催



講師の山本卓也先生

出席者の皆さんは身近な問題だけに興味深く聞き入っていました。主な内容は、次の通りです。

2月14日(木)長野地区賛助会では、合同庁舎別館サロンにて、幹事会の後「文化交流会」が行われ、私たちシニア層にとってもっとも関心がある年金・お金の運用・相続の三つの柱を主なテーマにして、ファイナンシャルプランナーの山本卓也先生の講演がありました。

知っておくこと
知っておくこと

今の公的年金の給付水準は、保たれるのでしょうか？

「肩車型」社会へ

今後、急速に高齢化が進み、やがて「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されます。

65歳以上1人に対する20歳～64歳の人口の割合



出典：総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)(出生中位・死亡中位)、厚生労働省「人口動態統計」



急速な人口減少により
将来いろいろな
問題が発生

相続の問題が
発生する前に
今の内に対策
を立て
「争族」回避を

争族回避へ

争いを防ぐためには、「公正証書遺言」!

	① 自筆証書遺言	② 公正証書遺言
概要	本人が全文、日付、氏名を自筆で書き、捺印すれば完成です。	公証人役場で、証人2人以上の前で遺言書の内容を述べ、公証人が遺言書を作成します。
メリット	○手軽に作成可能 ○費用がかからない	○公文書のため、安全確実 ○家庭裁判所の検認が不要 ○遺言書の原本は公証役場に保管されるため、紛失や隠ぺいの心配なし
デメリット	×有効か無効かで、争いになるケースがある ×開封時に家庭裁判所の検認が必要 ×紛失・偽造・隠ぺいの心配あり	×2人以上の証人が必要 ×公証人に対する費用がかかる



文化交流会

「豊かなセカンドライフ実現のために」を受講して

和田 英子

二月十四日、誰もが気になっていた問題を取り上げていただき、これは聞いておくべきと仲間にも声をかけ皆で出席しました。

「以前は預金をしておけばお金は増えると何の疑いもなく預けたけれど、今の金利では・・・」と講師の山本卓也先生のお話が始まりました。今まで汗水流してためたお金をどうしたらいいかと耳を澄まし、襲い掛かる睡魔を払いのけながら聞き入りいりました。

セカンドライフは、まず健康で好きなことに没頭し、楽しみながら生きる。まるでバラ色の毎日が待っているように思いますが、そんな時は長くは続きません。やがて老いてゆかなくてはなりませんし、大方の人は介護の手を借りることになると思いますが、その前に今

あるお金を少しでも増やすには、どうしたら良いのか、講師は、投資信託・変額保険がおすすめのことでした。

そして、子供たちに残すのは生前贈与を考えては・・・。年に百万円までは税金がからないし、亡くなる前の三年分は生前贈与と認められないので、どうせあげるなら早くからあげるのが良いようです。

元気なうちに相続が争族にならないよう、遺言書作成と生前贈与をしっかりとやっておくことが良いと締めくくっていただきました。短い時間ではありましたが大変勉強になりました。



平成 30 年度 長野地区賛助会事業検討会議

シニア大学生募集に減少傾向

今後の活動に課題

三十年度事業検討会議が二回にわたって行われました。その中で近年シニア大学への志願者が全体的に減少傾向にある、原因はいくつもある中で概ね六十五歳で現役が終わっても、老後の為にまだまだ働きたいと思ったり、地域役員を引き受ける傾向がある。他には、授業内容が少し変化し「社会参加」に重点に置くようになったことが苦痛との声も指摘されました。

また、「賛助会員の集い」・「入会説明会」等の運営方法など、もっとシニア大学生への拡大加入へのアピール等々が検討され、これらを四役会へ提案をし、次に幹事会で図るなど手順を確認しました。

二年間の学習が終り卒業式

第四十一期生の卒業式が二月二十日に若里市民文化ホールにて挙行され、一般コース百三十七名・専門コース十九名が終えましました。

来賓の市町村代表に飯綱町長と実技指導の中嶋研二先生が祝辞を述べられ、県知事のビデオメッセージがあり終了しました。

第四十一期生の卒業式



グループ活動紹介

私たちクラブの紹介と活動

「ふれあい長野ビデオクラブ」

会長 大島 勲

当クラブは、今年で創設 22 年になります。

私は、平成 13 年から入会させて頂きましたので、開設時の詳しいことは分かりませんが、当時からの方々に伺いますと、発足のきっかけは、家族や地域の様子を漸く一般化し始めたビデオ機器を使い、ビデオ映像に残したいとの思いで始めたということでした。

その後、ビデオカメラ・編集機器や記録方式の技術進歩により、手法はいろいろ変わってきていますが、クラブ員のビデオ映像に関する思いは今も変わらず、また、今後も引き継がれると思います。

ビデオは、保存記録手段として、香りは残せませんが動く画と音は同時に残せますのでこの特質をフルに活かしています。

現在クラブ員は 20 名おり、みな家族や地域等の出来事、記念すべき事などの記録保存伝統文化・生活の営みなどを残し、伝えるべき事は伝える手段の一つとして、また、地域へ



ビデオ編集で悪戦苦闘する仲間たち

の貢献活動へも役立てることを目的に活動し、人生百年時代と言われる中で、新たな生き甲斐の場として、第二の人生謳歌の日々に当たりたいと思っております。

当クラブでは、各人が一年間に作成した作品の中から、選りすぐり作品を一堂に会して発表会を行っておりますので、その節には是非お出かけください。皆様のご来場をお待ちしております。

また、既発行 10 年誌に続き、ここ 10 年間のクラブ活動の様子を記録した記念誌も

制作しました。

クラブ員以外の方々にも見て頂き、私たちの活動を知って頂ければ幸いです。



プロレスラー

「グレート無茶」さん

峯村会長宅へ

「長野ケーブルテレビ」の取材で訪れ約一時間の対談「聞き上手で優しく、腕は私の三倍の太さで足の裏のような硬さ」とのこと。

陸前高田市出身 震災当時中学一年生 自宅が全壊し、現在漫画家志望で今回交流会に参加した、菅野 安納さんの作品。

